

隔月刊「もっと、ずっといい日」
発行 / 2019.11.25
株式会社MOZU 東京都新宿区西新宿3-17-7
Tel / 03-5755-3150
企画・編集 / スタッフHMNS
無断禁転載・非売品(会員誌)

【監修】



一般社団法人
温熱療法協会
Hyperthermia Association

< 温熱レポート >

もっと、
ずっといい日

米国の統合医療に「鍼(はり)治療」の市民権を
確立させた医師が追い求める「理想の医療」

西洋医学の視点で鍼治療の
作用機序を解明

「よく日本に戻ってきてく
れましたね」

「いえ、そんな…」
この会話は、先生が米国
での大学教授生活に区切
りをつけ日本に帰国したこ
とに、安堵(あんど)にも似
た筆者の気持ちを書き直
した言葉です。

近年、優秀な人材が海外
に渡りその国に定住する、
いわゆる「頭脳流出」が話
題になっています。日本に
とって大きな損失です。

そんな思いが思わず過
(よ)ぎるほど、先生は輝か
しい業績と経歴を持つドク
ターです。「大学を出て
10年ほど消化器外科医
をやってきました。その間、
鍼治療を習得しそれを慢



高橋 徳 たかはし とく

ウイスコンシン医科大学名誉教授。統合医療クリニック
徳院長。関西の病院で消化器外科を専攻した後、渡米。
ミシガン大学助手、デューク大学教授、ウイスコンシン医
科大学教授を経て、現在ウイスコンシン医科大学名誉教
授。2016年名古屋に『統合医療クリニック徳』をオー
プン。主な研究テーマは『統合医療』と『オキシトシンの
生理作用』。著書『人は愛することで健康になれる』『あな
たが選ぶ統合医療』『オキシトシン健康法』など。

性疼痛の患者の治療に応用
してきました」

その後、勉学の目的で渡米
しています。27年前のこと
です。西洋医学の在り様に疑
問や限界を感じての渡米だっ
たようです。例えば、がん治
療の現状。「手術をし、抗がん
剤を投与する。いわゆるその
のゴールデンスタンダードを
信じていましたが、抗がん剤
を投与しても副作用ばかり
で全然効かない。西洋医学は
これでいいのかと思いました。
米国に行つて医学の勉強をも
う一度やり直そうと思いま
して…」

米国の大学では、主に鍼治
療を教えながら膨大な臨床
実績を重ねたに違いありま

せん。ちなみに鍼治療は中医
学に古くからある医療分野
です。

しかし、「鍼はよく効くので
すが、なぜ効くのかいろいろ
調べても納得がいく理論がな
い」分野でもありました。そ
れに問題を感じたのでしょ
う。

「なぜ鍼が効くのか。どんな
メカニズムで効くのか。西洋
医学的なアプローチでしらみ
つぶしに徹底的に調べまし
た」作用機序の解明研究
に10年の歳月が掛かったと
いいます。その研究をまとめ
た論文が医学界で認めら
れ、その後米国で鍼治療
ブームが起きています。

先生は謙遜しますが、その
優れた功績が「火付け役」に
なったに相違ありません。後
年、米国で生まれ世界に定
着した「統合医療」という新
しい医療概念の分野に、「鍼
治療」という分野の市民権が
確立できたのも、先生の論文
が多大な影響を及ぼしたこ
とは容易に想像できること
です。

理想の医療を求めて
心と体の同時ケア

現在、先生は名古屋に『ク
リニック徳』を開所し、ここを

拠点に米国で研鑽した20
余年に行き着いた「理想の医
療」とする統合医療を広め
ています。

「人は愛することで健康にな
れる」
これは先生が著した書籍
名です。この書題に先生の医
療と向きあう姿勢や人柄、
あるいは医療人としての哲
学や唱える統合医療の精神
が表れているように思われ
ます。

それは「心と体の両面から
同時にケアする」医療を意
味しているものと考えられ
ます。その医療概念を支え
ている物質が、同書の副題に
ある「愛のホルモン」オキシト
シン、いわゆる視床下部から
放出されるホルモンだとい
うのです。紙幅の関係で詳細
は書けないのが歯痒い限り
ですが、物書きを生業とす
る筆者としては、一冊の本に
できるほど実に奥深くて興
味深い視点です。

遠赤外線温熱ドーム『日だ
まり』は先生の医院に導入
されています。「ここで一緒
に働いている皮膚科の先生
が、東京でたまたまその製
品を知り使つてとてもいい
というので、それならここで

と申し……」

それが導入の動機で、もう
半年以上前から「活躍」してい
ます。先生によれば「鍼治療
をした部位に被(かぶ)せてお
くと、鍼と温熱の血流促進効
果との相乗効果があり評判は
いい」と評価してくれました。
単に温熱効果だけではなく
「体に良い親和性のある特別
な波長も関係してくれている
のかもしれない」と、先生は
その未知なる機序の作用の可
能性も示唆してくれました。

誰でもわかる薬機法入門講座⑦

知らないではすまされない関連法規 ～法令遵守精神で正しい製品普及を～

医療機器の種類はその使用目
的から大きく分けると治療機器群
と診断機器群、分析機器群などに
分類されることは前号でふしま
したが、診断機器群には本来の生理
検査機器群のほかに、生体情報モ
ニターなどのモニター機器群など
も含まれます。
これ以外にも、設備機器類や衛
生用品、家庭用医療機器、また従
来からの心電図などの医療機器
と呼ばれるものなどもあります。

MOZUの製品の多くは、医療機
器ではありませんが、管理医療機
器「遠赤外線温熱治療ドームレイ
ンボー」が医療機器認証を取得し
ていることから、前号と今号では
法律が定める医療機器にはどのよ
うなものがあるのかを学んでいた
きました。

これまで薬機法(薬事法)とは
どのような法律なのか。「遠赤王」
シリーズの製品は、それを用いる
ことで期待される作用が医療用機

器の分野と比較的近似している点
もことから、医療機器とはど
のようなものなのかを見てしま
した。「遠赤外線温熱治療ドームレ
インボー」をお使いになっている
方や導入を検討されている分野
の方以外は、あまり関心がないよ
うに思われるかもしれませんが、し
かし薬機法は体の健康に関わる
点が多い法律であることから消費
者にとって、実はとても身近で関
心の高い法律なのです。